

## 言葉の地平

言葉の地平

ガラス板のように底まで覗ける

彼は歌であることをやめた

旋律は別の者が浴びるほど降らせてくれる

イメージ、比喻

それらも形骸化した理論となった

彼はただ

おん音と意味を纏っていればそれでよかった

喋ること、語ること、囁くこと

その果てにある思いまでもが単なる事実となった

寄り添うことは彼には慰めではあったろう

だがゆるやかな充足感に包まれることはない

彼の臆想は自己自身の中に閉じられ

地平線が孤立を包囲する

デジタルのように瞬間の連続としてのみ許されるもの

今や彼はそれをかき集める、果てしなく

かき集め、そして並べ直し

形になればどのような形であろうとほっと息をつく

言葉の地平

そのガラス板から見える底には

陳腐という名の葬列

彼は咳く

「俺はいつ、あそこに加わるのか」

(2001.9.5)